

8/23

新大村(仮称) 駅舎デザイン案を推薦



新 幹線新大村(仮称) 駅舎のデザイン案3つのうち、A案を市の推薦案として鉄道・運輸機構に推薦しました。

A案は、「新しい街の玄関口、ここを踊るふれあいの駅」がテーマ。建築士会大村支部や市新幹線まちづくり推進協議会、市内の高校生など、多くの皆様のご意見を参考に選定しました。

なお、デザインの最終決定は、鉄道・運輸機構が行い、来年度から工事が始まる予定です。

新しい大村の玄関口に

8/31

災害時等における無人航空機による協力に関する協定書締結式



映 像制作会社プロダク ションナップとの間で、災害時における無人航空機(ドローン)による協力に関する協定を締結しました。

これは、市内で自然災害や大規模事故などが発生した際に、市の要請に応じて、ドローンを活用して情報収集を行うもの。特に、人が入れない場所など、ドローンの映像によって、災害の状況を正確に把握することができ

ます。

さっそく、同社のご協力により、不発弾処理作業の現場や、総合防災訓練でも活用しました。

ドローンを活用し被災状況を正確に把握

不発弾処理作業



松 並2丁目で見つかった不発弾の処理作業が、陸上自衛隊の不発弾処理隊により行われました。

市は、午前8時に「不発弾処理対策本部」を設置。周辺の住民に避難勧告を発令し、国道34号の一部区間を含む周辺の道路を交通規制しました。

不発弾は米国製の250キロ爆弾。午前10時から自衛隊の隊員が処理作業にあたり、信管を慎重に取り除き、約1時間で無事に作業が終了しました。

皆さまのご協力ありがとうございました。

9/3

不発弾処理、無事終了

大村市総合防災訓練



関 係機関や市内の団体、事業所、自主防災組織など、26団体、約550人が参加して、「総合防災訓練」を実施しました。

訓練は、大規模災害が発生したという想定。各機関が連携して、さまざまな訓練を繰り返しました。

参加した皆さんは真剣なもの。普段見ることができないヘリコプターや自衛隊の特別車両なども登場し、救助訓練や消火訓練など本番さながらの訓練に、見学に訪れた約350人の皆さんは、改めて防災意識の大切さを実感しました。

9/10

もしもに備え、連携を強化

